

半世紀先にも誇れる仕事で 暮らしの安全安心を創る

「社会インフラを支える建設業に身を置く者として、快適で安全な暮らしや雇用の創出のお手伝いをしています。住民が主役のまちづくりで、裏方としての責任をしっかりと果たしたいですね」と語るの

は、甲佐町建設業協会会長の山形 學さん（辺場区）。同協会は、町内の建設業者12社で構成。安全に関する社員研修や社会貢献事業に共同で取り組んでいる。「建設業は地図に残る仕事



山形 學さん
Yamagata Manabu

〔辺場区〕

やまがた まなぶ / 甲佐町建設業協会会長。同協会が設立された平成25年に町と締結した「大規模災害時の支援活動に関する協定」に基づき、被災した道路の応急措置などに取り組む。

です。50年先もきちんと使えるよう、責任ある仕事が行われます。移動や物流を根幹から支える道路整備はなおさらです」と山形さん。

大きな災害が発生し不自由な暮らしを強いられた時、迅速な復旧に必要不可欠なものひとつが道路だ。物資や人材の支援を受け入れるための道路の復旧は欠かせない。熊本地震では各地で道路網が寸

断され、交通状況は大きく混乱した。

「町との災害協定に基づいて、協会会員と共に亀裂の走った道路や法面の補修、がれきの撤去などの復旧工事に夜通しで取り組みました。皆さんが1日でも早く安全に通行できるように、という思いで町内を走り回っていた気がします」と5年前を振り返る。

今年も豪雨や台風などに警戒が必要な雨の時期を迎えており、土砂崩れや河川の氾濫が心配される。同協会では、発災時に迅速な行動ができるよう、会員同士で危険箇所の把握や情報共有を日ごろから心掛けているという。

「子どもたちの元気な姿が目を見る総合運動公園も氾濫の危険と隣合わせです。私たちの協会では、洪水の危険を避けるために、緑川の水位が上がるのとサッカー場を囲む支柱とネットを撤去する役割も担っています」と話す山形さんは、災害に強い道路などの整備と災害発生時の迅速な復旧を通して、甲佐の安全安心な暮らしを創造し続ける。